



2017 年 4 月 10 日

報道各位

**「ACC CM FESTIVAL」が進化したクリエイティブのアワード
「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」を開催
～ 新たに 2 部門を創設し、6 月 1 日より応募受付開始 ～**

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟(略称：ACC、東京都港区、理事長：高田坦史)は、テレビ、ラジオ CM の質的向上および、広告文化の健全な発展に寄与することを目的に、1961 年より「ACC CM FESTIVAL」を開催してきました。

2017 年よりこれを継承する形で、あらゆる領域のクリエイティブを対象としたアワード「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」(2017 年度開催の名称：「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」)に名称を変更し開催いたします。

日本の産業を取り巻く環境が著しく変化している今、様々なレイヤーの企業活動にイノベーションが求められ、マーケティング活動においてもメディアを超えたコミュニケーションが当たり前となっています。このような背景のもと、テレビ、ラジオ CM から始まった ACC の活動もその枠を大きく広げ、広告の領域にとどまらない、クリエイティビティを軸とした新しい形で日本の産業に貢献していく考えです。

これに合わせ、「ACC CM FESTIVAL」は「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」に名称を変更。あらゆる領域のクリエイティブを対象としたアワードへと進化します。

「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」では、既存の 4 部門であるフィルム部門、ラジオ CM 部門、マーケティング・エフェクティブネス部門、インタラクティブ部門に、新たに、メディアクリエイティブ部門、クリエイティブイノベーション部門を加えた全 6 部門にて作品を募集し、各部門で幅広く表彰いたします。

各部門の審査委員長の紹介およびメッセージ、スケジュールは下記の通りです。

※新設 2 部門については、決定次第お知らせいたします。

■ 「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイト

<http://www.acc-awards.com/>

本件に関するお問い合わせ

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263

www.acc-cm.or.jp

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟 担当：平川

「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」概要

【部門構成】

- ・フィルム部門 A カテゴリー（テレビ CM）／B カテゴリー（Online Film）
- ・ラジオ CM 部門
- ・マーケティング・エフェクティブネス部門
- ・インタラクティブ部門
- ・メディアクリエイティブ部門（新設）
- ・クリエイティブイノベーション部門（新設）

【スケジュール概要】

■応募要項発表 5月上旬～中旬

■エントリー期間

6月1日（木）～7月3日（月）まで

- ・前期料金対象期間：6月1日（木）～6月19日（月）23：59まで
- ・後期料金対象期間：6月20日（火）～7月3日（月）18：00まで

■入賞作品発表

9月26日（火）18：00頃、「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイトにて、全入賞作品リストを掲載致します。

■贈賞式・記念パーティ

- ・日程：11月1日（水）※時間未定
- ・会場：ANA インターコンチネンタルホテル東京 B1F「プロミネンス」
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-12-33

■入賞作品発表会

<東京発表会>

- ・日程：11月22日（水）※時間未定
- ・会場：イイノホール&カンファレンスセンター
東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング

※地域発表会（東京以外の 29 カ所）は、東京発表会以降、2018 年 3 月末まで開催予定。

■「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイト

<http://www.acc-awards.com/>

「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

各部門審査委員長およびメッセージ

■フィルム部門 澤本 嘉光 氏



電通 クリエーティブ・ボード/エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター

【受賞歴】クリエイター・オブ・ザ・イヤー、TCC 賞 グランプリ、ACC グランプリ、カンヌ国際広告祭銀賞、ADFEST（アジア太平洋広告祭）グランプリ、クリオ賞金賞・銀賞など

【審査委員歴】ACC ラジオCM部門審査委員長、TCC 賞、カンヌ、クリオ、アドフェスト etc

【プロフィール】

1966 年、長崎市生まれ。1990 年、東京大学文学部国文科卒業、電通に入社。ソフトバンクモバイル「ホワイト家族」、東京ガス「ガス・パッ・チョ!」、家庭教師のトライ「ハイジ」など次々と話題のテレビCMを制作し、乃木坂46、TMレボリューションなどのPVなども制作している。著書に小説「おとうさんは同級生」、小説「犬と私の10の約束」（ペンネーム＝サイトウアカリ。映画脚本も担当。）、映画「ジャッジ!」の原作脚本。東方神起などの作詞も担当している。

【メッセージ】

広告を広告する審査にしたいと思います。

まずは「ACCは気にしてないからあえて出品してないんだよ」なんていう人がへそ曲がりか単に自信がない人に見えるような「審査して欲しい人に審査してもらえる審査会」を目指します。

クライテリアは「いいじゃん」。「広告っていいじゃん」と思える、というのを一個の定規にしたいです。こんな素敵なもの作れていいじゃん、こんなにくだらないもの作っちゃっていいじゃん、こんなにもの売っちゃうなんていいじゃん、

こんな監督いるなんていいじゃん、このタレントこう使うなんていいじゃん、こんな人が従事してる広告って世界ってなんかいいじゃん、

なんでもいいので、いいじゃん、を探していければ。ま、同時に、ダメじゃん、も探すってことになると思うんですが。

褒められてるけど誰も見てないからダメじゃん、とか、まあこっちはいろいろ列举しなくてもいいかなと。

なんにしろ、「広告」って、漢字の文字で見た印象よりちょっと楽しそうだぞ、なんかありそうだぞ、と思えるような結果を模索したいですし、きちんとそれを知らせていきたいと思います。

これをきっかけに、いろんな埋もれたり隠れたりしてるものが少しでも表に出て褒められるといいなと思いますし、今すでに褒められてるものでもまだいけるかもと優良誤認?してくれるといいかなと思います。

自信は作品につながるの。

あ、でも一番の目標は、すみません、楽しく審査することです。それが楽しい結果に繋がるの。

気持ちって見えないけど伝染すると思っています。

■ラジオ CM 部門 嶋 浩一郎 氏

博報堂ケトル 代表取締役社長

【主な仕事】

資生堂企業広告・J-WAVE 企業広告・三越伊勢丹企業広告・本屋 B & B などの経営・本屋大賞の運営・ラジオ番組「渋谷慶一郎と嶋浩一郎のラジオ第二外国語」（ラジオ日経）・雑誌「ケトル」など 著作「ブランドメディアの作り方」・「なぜ本屋に行くとアイデアが生まれるのか」など多数

【プロフィール】

93 年博報堂入社。コーポレートコミュニケーション局で企業の情報戦略にたずさわる。01 年朝日新聞社に出向。スターバックスコーヒー等で発売された「SEVEN」編集ディレクター。02-04 年博報堂刊「広告」編集長。04 年本屋大賞設立に参画。現在も N P O 本屋大賞実行委員会理事として「本屋大賞」の運営を行う。06 年博報堂ケトル設立。統合キャンペーンを多数手がけると同時に、雑誌「ケトル」編集長などコンテンツビジネスも展開。12 年ブックコーディネーター内沼晋太郎と下北沢に本屋 B & B を開業。

【メッセージ】

ラジオは可能性を秘めている。

聴取者とのエンゲージメントはとても深い。

ラジオは元祖ソーシャルメディアだ。

そして、デジタルとの親和性も高い。

スマホが受信機になって新しいリスナーも増えている。

そして、ラジオは

CM のつくり手にとって

チャレンジできるメディアだとも思う。

若い才能がラジオ CM でいろんな挑戦ができる状況を作っていきたいと思います。

ラジオが大好きなラジオ番組制作者、その喋り手、CM の制作者が集まって、ラジオの未来を話し合う、そんな審査を目指します。

■マーケティング・エフェクティブネス部門 矢野 絹子 氏

KDDI コミュニケーション本部 宣伝部 部長

【受賞歴】

2016 56th ACC CM FESTIVAL フィルム部門 A カテゴリー総務大臣賞／ACC グランプリ、
2016 56th ACC CM FESTIVAL マーケティング・エフェクティブネス部門 ACC ゴールド

【審査委員歴】

ACC CM FESTIVAL マーケティング・エフェクティブネス部門 2015、2016 審査委員

【プロフィール】

日本移動通信株式会社（IDO）入社。

KDDI 株式会社発足以降、主にコンシューマ事業における料金施策やサービスの企画・開発を担当した後、2013 年 4 月より現職。au ならびに KDDI に関するブランディングやコミュニケーション活動を担当。

【メッセージ】

今回、審査委員長を拝命いたしました。

昨年度までの審査方針を踏襲しつつ、お客さまの行動変化・メディアの多様化・クリエイティブの技術革新等を踏まえ、よりエフェクティブネスにこだわり、「効いた！」の進化・深化につながる賞にしたいと考えております。

評価ポイントは「マーケティング戦略」「クリエイティビティ」「成果」の3点で、「マーケティング戦略×クリエイティビティ」の効果がいかにインパクトある「成果」につながったかが肝になります。

審査はクリエイター・マーケッター・企業の宣伝責任者にお集まりいただき、さまざまな視点からじっくり議論してまいります。

昨年からエントリーの条件を緩和したこともあり、年々応募数も増えております。

規模の大小は問いませんので、「これは効いた！」という自信作のエントリーをお待ちしております。

■インタラクティブ部門 須田 和博 氏

博報堂 シニア・クリエイティブディレクター

【受賞歴】1985 年ぴあフィルムフェスティバル入賞、1999 年 ACC 賞、2000 年 TCC 新人賞。

2009 年「ミクシィ年賀状」で、TIAA グランプリ受賞、カンヌ国際広告祭メディアライオン・ブロンズ受賞。

2013 年「ロッテ・カフカ・泣きやみ動画」で、カンヌサイバーライオン・ブロンズ受賞。アジア太平洋広告祭 2014 で、モバイル・ロータス・ゴールド、サイバー・ロータス・シルバー受賞。

2014 年「ライスコード」で、カンヌ PR ライオン・ゴールド、同アウトドア・ゴールド、アジア太平洋広告祭メディア・ロータス・グランデ、ロータス・ルーツ、APAC エフィー・ゴールド、JACE イベントアワードなど、合計 60 冠以上を受賞。

【著書】

「使ってもらえる 広告」アスキー新書

【プロフィール】

1967 年新潟生まれ。1990 年多摩美術大学卒、博報堂入社。AD、CM プラナーを経て、2005 年インタラクティブ領域へ。2014 年スダラボ発足。同ラボの第 1 号試作品「ライスコード」で、アジア太平洋広告祭にて、メディア・ロータス・グランデ、ロータス・ルーツ、はじめ合計 7 冠を得る。

※新設 2 部門の審査委員長につきましては、決定次第発表致します。

以上



【ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS とは】

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」は、テレビ、ラジオ CM の質的向上を目的に、1961 年より開催されてきた広告賞「ACC CM FESTIVAL」を前身とし、2017 年よりその枠を大きく拡げ、あらゆる領域におけるクリエイティブを対象としたアワードにリニューアルしました。

2010 年にマーケティング・エフェクティブネス(ME)部門、2014 年にインタラクティブ部門、2017 年に、メディアクリエイティブ部門とクリエイティブイノベーション部門を創設。名実ともに、日本最大級のアワードとして広く認知されており、総務大臣賞/ACC グランプリは、クリエイティブ業界で活躍する関係者の大きな目標となっています。

【ACC とは】

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟（ACC）は、よい CM の制作と放送の実現に寄与することを目的として、1960 年に公益法人として設立。2013 年に一般社団法人へと移行しました。

ACC は、広告主・広告会社・制作会社・放送会社の 4 業種のメンバーを中心に構成され、業種の枠を超え、グローバルな視点から日本のクリエイティビティの発展に寄与すべく活動しています。